

Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：貿易統計（11月）

発表日：12月22日（木）

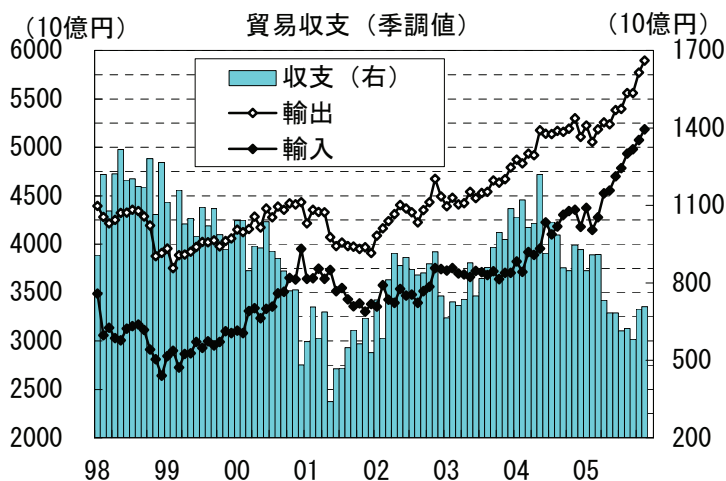
～ 輸出の回復傾向が顕著に ～

(No. J-190)

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 副主任エコノミスト 新家 義貴

TEL：03-5221-4528



(出所：貿易統計・財務省)

(10億円)	季調値			原数値
	貿易収支	輸出	輸入	貿易収支
04年10月	848	5191	4343	1154
11月	947	5300	4354	597
12月	930	5108	4179	1133
05年1月	848	5223	4375	194
2月	908	5055	4147	1090
3月	910	5185	4276	1119
4月	732	5257	4525	958
5月	684	5238	4554	293
6月	684	5383	4699	869
7月	614	5399	4784	869
8月	624	5560	4936	112
9月	581	5560	4979	953
10月	699	5773	5074	819
11月	708	5895	5187	601

(出所：貿易統計・財務省)

前年比	輸出金額	輸出価格	輸出数量指数				輸入金額	輸入価格	輸入数量指数			
			全体	対米	対EU	対アジア			全体	対米	対EU	対アジア
04年11月	13.4	7.6	5.3	2.8	3.1	13.6	28.1	11.8	14.6	10.6	11.8	16.0
12月	8.8	5.9	2.7	0.5	3.2	6.8	11.1	8.1	2.8	16.6	▲0.3	4.5
05年1月	3.2	6.5	▲3.1	▲5.2	▲14.6	▲1.5	11.4	8.7	2.5	▲0.5	4.2	4.9
2月	1.7	6.1	▲4.2	2.3	▲6.7	▲3.7	11.4	6.6	4.5	4.5	▲3.4	12.2
3月	6.1	4.9	1.1	3.4	▲9.2	1.0	7.7	6.0	1.6	▲1.2	▲5.1	4.7
4月	7.8	9.3	▲1.4	0.8	▲2.5	▲1.9	12.8	13.4	▲0.6	▲4.2	2.5	2.7
5月	1.4	4.0	▲2.5	2.0	▲7.8	▲5.0	18.7	9.2	8.7	6.8	3.5	11.0
6月	3.6	3.1	0.5	2.4	▲8.8	▲0.6	11.1	8.9	2.0	▲0.1	▲2.3	6.0
7月	4.3	5.1	▲0.8	▲1.0	▲2.8	▲4.5	11.7	12.4	▲0.6	7.1	▲4.8	▲1.0
8月	9.1	7.0	2.0	3.6	▲1.2	1.0	21.3	11.1	9.2	8.9	6.6	12.7
9月	8.8	7.4	1.3	3.4	▲2.7	▲3.1	17.5	13.1	3.9	3.9	4.8	3.8
10月	8.0	5.5	2.3	3.9	▲1.4	▲1.5	17.9	15.2	2.3	▲13.9	0.3	7.4
11月	14.7	7.7	6.5	4.8	▲0.6	4.0	16.5	19.2	▲2.2	▲2.4	▲1.1	0.2

○ 貿易黒字は下げ止まり

12月の貿易黒字は6006億円（原数値）、前年比+0.6%とほぼ市場コンセンサス（6128億円、前年比+2.6%）並みとなった。貿易黒字は10月まで7ヶ月連続で前年比2桁減少が続いてきたが、今月は8ヶ月ぶりに増加に転じた。今月特に目立ったのが輸出の増加であり、前年比+14.7%とコンセンサス（前年比+11.0%）を大きく上回っている。円安により金額ベースでかさ上げされた面もあるだろうが、数量ベースでも前年比+6.5%（10月同+2.3%）と伸びが高まっている。今月の貿易統計は、全体的に比較的強めの結果といえるだろう。

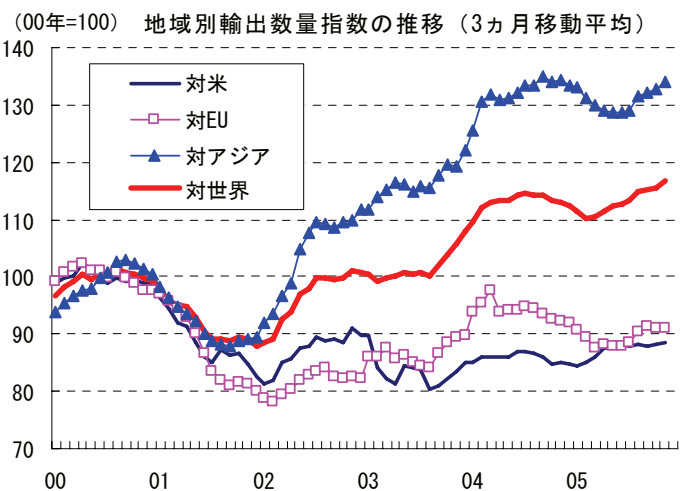
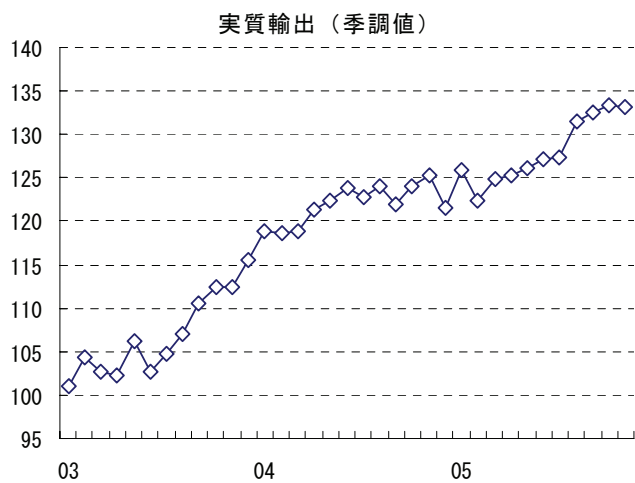
こうした輸出の回復に伴って、これまで減少を続けてきた貿易黒字はここにきて持ち直しつつある。先行きに関しても状況は悪くない。まず輸出面では、後述するように今後も回復が期待できる。また、原油価格

が一頃に比べると水準を切り下げていることの影響が今後輸入価格の低下に反映されてくることから、輸入金額の伸びも今後徐々に鈍化してくるだろう。したがって、貿易黒字は今後、持ち直し傾向を強めてくると予想される。

○ 懸念材料は徐々に払拭

実質輸出（季調値、日本銀行作成）は前月比▲0.1%とほぼ横ばいだが、10-11月平均の7-9月期比は+2.2%と高い伸びであり、輸出の回復傾向は鮮明になっている。内訳をみても全般的に改善しているが、特に回復が目立つのが、地域別では中国向けを中心としたアジア向け、財別ではIT関連財と自動車だ。11月の中国向け輸出金額は前年比+24.5%と前月（同+12.6%）から、さらに伸びを高めた。中国の投資抑制策の影響も一巡し、中国国内の在庫調整に関しても調整圧力は弱まっていることから、中国向け輸出を抑制する要因は特に見当たらない。今後、中国の成長に見合った程度での輸出の高い伸びが期待できる。IT関連財に関しても、世界的なIT部門の在庫調整の終了を背景に、アジア向けを中心に持ち直している。また、自動車輸出に関しても、米国向けを中心に好調だ。米国自動車市場の動向には不透明感もあるが、今のところ日本車の売れ行きが大きく落ちているという話も聞かない。今後も日本車のシェアアップによって対米自動車輸出は好調を持続すると予想される。

先行きの輸出に関しても、米国、アジアを中心として世界経済が底堅く推移すると予想されることから、好調な推移が続くと思われる。リスク要因として懸念されていたクリスマス商戦に関しても、今のところ堅調な推移となっている模様であり、輸出の先行きについての懸念材料は徐々になくなりつつある。今後も、輸出の回復が生産を押し上げることによって、景気は着実に回復していくことが予想される。



(出所) 日本銀行「実質輸出入」

